

第243回 大学における地域貢献教育の事例調査：
ポートランド州立大学の場合

- 地域貢献教育への興味：なぜ興味を持ったのか？
- ポートランド州立大学について
“Let knowledge serve the city!”
- カリキュラムの特徴
一般教育改革 / キャップストーンプログラム /
プログラムの一例
- FD機能：どのように地域連携教育を推進しているか？
Center of Academic Excellence
- コーディネーター・IDerの役割：私は何をするの？
地域と連携したプログラムの開発に向けてIDerに求められること

地域貢献教育への興味

- サービスラーニング(コミュニティに根ざした学習) 地域での奉仕活動と学校での学びを組み合わせた学習。地域活動での実践と座学やリフレクションを組み合わせることで、地域コミュニティのメンバーとしての責任感や地域貢献への態度を育む。

山田(2007)「コミュニティ問題を改善しながら理論を学ぶ」カレッジマネジメント147

- プロジェクト型学習(PBL) 学生が、複雑な課題に対して、デザイン・情報収集を自律的に行い、何らかの制作物を生み出すことによって課題解決を行う学習。

参考ランチョン: 第223回 PBL科目の開発に向けて



地域との連携をPBLにうまく取り入れられないか？

ポートランド州立大学 “Let knowledge serve the city!”

- 全米でもっとも住みたい街ポートランド
歩行者に優しいまちづくり /
アートに溢れたまちづくり 等

NAVERまとめ: 全米住みたい街No.1 オレゴン州ポートランドってどんな所?
<http://matome.naver.jp/odai/2138800062478582601>



- 第二次世界大戦後1946年設立の総合大学
第2次世界大戦の退役軍人を対象とする高等教育機関の
需要が高まったのを受けて創立。
60ものバラエティ豊かな専攻がある
- 全米で都市型大学として高い評価を受けている

– 都市型大学(The Urban University)とは

「地域社会や学生の要望に敏感に対応する大学」

町井輝久(2005)「キャプストーンプログラムに見る地域連携教育の進め方：ポートランド州立大学のシニアキャプストーンプログラムから学ぶこと」(札幌学院大学論集)<http://sgulrep.squ.ac.jp/dspace/handle/10742/1067>

一般教育改革

- 一般教育: どの分野にも依存しない普遍性を理念とする教育のこと。↔ 専門教育
- 問題点: ドロップアウト率の高さ(最終的に学位取得に至るものは入学時の1/4を超えることがなかった)
- 原因: 学生にとって学ぶ目的が不明確 / 学生の興味・関心とは無関係に科目が設置 → 学習意欲を削いでしまう結果につながった
- “Student Searving theCity”を教育目標に掲げ、地域コミュニティの活動に積極的に参加させ、学ぶ意味と目的を理解させる教育を推進
- 専門教育と同時に地域貢献を基調とした一般教育を2本柱として、専門性を磨きながら、それを社会に活かす方法を学ぶ

町井輝久(2005)「キャプストーンプログラムに見る地域連携教育の進め方: ポートランド州立大学のシニアキャプストーンプログラムから学ぶこと」(札幌学院大学論集) <http://squelrep.sgu.ac.jp/dspace/handle/10742/1067>

キャップストーンプログラム

- 一般教育改革の中心をなす必修プログラム
- 2セメスターに渡り、80-100時間のNPOや教育施設、環境組織、政府などと連携した地域体験型学習
- プログラムの目的
 - ①学生に現実世界の論点や問題への彼らの領域知識を応用することを促す
 - ②学際的な文脈で働く経験を学生に与える
 - ③学生に彼らのコミュニティへ能動的に活動する力を与える

Portland State University "THE CAPSTONE CAPSULE 2015-2016 "

<http://www.pdx.edu/unst/sites/www.pdx.edu.unst/files/Capstone%20Capsule%202015-2016%20For%20Printing.pdf>



キャップストーンプログラムの一例

- 例：ストーリー・ビデオ・市民のアクション

このオンラインコースでは、いかに市民のアクションと物語発見とそれを伝えるプロセスが、われわれのコミュニティにおける効果的な変化をもたらす不可欠な役割をいかに果たすか伝えます。各学生は、期間中にかれらが選んだ機関へ30時間以上のボランティアをすることが期待されます。ポートランド州立大学TVのサポートにより、ボランティアの経験についてのビデオを制作する予定です。

- その他のプログラムタイトルの一例

都市の農業と食料システム / 女子刑務所の庭 等

- 教材や議論の場などに何らかのオンラインツールを導入しているものが多い

Portland State University "THE CAPSTONE CAPSULE 2015-2016 "

<http://www.pdx.edu/unst/sites/www.pdx.edu.unst/files/Capstone%20Capsule%202015-2016%20For%20Printing.pdf>



FD機能: Center of Academic Excellence

ポートランド州立大学でキャップストーンプログラムを推進するスティーブ・ジョンソン氏の講演録

「活動を組織するために大学インフラの改革が必要ということだ。センター・フォー・アカデミック・エクセランス(大学教育改善センター)がこうした地域連携学習を推進している。同センターに10~15人のスタッフがいる。教員の地域学習クラスづくりを支援し、地域のパートナー団体を探し、さまざまな書類や契約書を作成し、互いに問題なく協力できるようにし、コンピュータその他技術的支援が必要になれば提供し、非常に広い分野にわたり支援を行なう。かなりのクラスが自立してやれるようになってきてはいる。それでも1万5000人もの学生がいる。依然として多様な支援活動が必要だ。」

「失敗を長く続けていくうちに、いろいろ現場で支援が必要だとか、コーディネーション手法だとか、だんだんノウハウが蓄積されてくる。同じようなプロジェクトをやった他の教員からアドバイスを受ける場合もある。すでに関係のあった団体、地域、リーダーについての情報がデータベース化されているのでそれも利用できる。」

PSUスティーブ・ジョンソン名誉教授による講演「地域と連携した大学教育」@東邦学園大学 <http://www5d.biglobe.ne.jp/~okabe/steve1.htm>

コーディネーター・IDerの役割:

- 地域と連携したプログラムの開発に向けてIDerに求められること
 - ①プログラムの開発支援
 - ②地域のパートナー団体とのコーディネート
 - ③ICTの導入支援
 - ④地域と連携したプログラム開発のノウハウの蓄積 / 情報のデータベースの作成
- ポートランドに負けない世界一学びやすいまちに熊本をする！
- わからない情報が多いので、ポートランドに行ってみてほしいな。。



参考文献

- 山田(2007)「コミュニティ問題を改善しながら理論を学ぶ」カレッジマネジメント147
http://souken.shingakunet.com/college_m/2007_RCM147_70.pdf
- PSUスティーブ・ジョンソン名誉教授による講演「地域と連携した大学教育」@東邦学園大学<http://www5d.biglobe.ne.jp/~okabe/steve1.htm>
- 波多野進編『大衆社会における大学教育—オレゴン州ポートランド地域のケース』(晃洋書房, 2002)
- 町井輝久(2005)「キャプストーンプログラムに見る地域連携教育の進め方：ポートランド州立大学のシニアキャプストーンプログラムから学ぶこと」(札幌学院大学論集)<http://sgulrep.sgu.ac.jp/dspace/handle/10742/1067>

